

交わり——召会生活の実際

聖書：Iヨハネ 1:1-3, 7. 使徒 2:42. Iコリント 1:9. 10:16-17

- I. 人の体に血液の循環があるように、キリストのからだにも一つの循環があります。その循環を新約は交わりと呼んでいます。この交わりが召会生活の実際です——Iヨハネ 1:3, 7:
- A. 交わりは、共にあずかること、共同であずかることです。こういうわけで、交わりを持つことは、団体的に何かにあずかることです——ピリピ 4:14. 2:1。
 - B. 交わりは、永遠の命の流れ出であり、実は信者たちの中の永遠の命の流れです——Iヨハネ 1:1-3, 7。
 - C. 唯一の交わりを持つために、わたしたちは神聖な命によって生き、天然の命の中ではなく、神聖な命の中で振る舞わなければなりません——ローマ 8:2, 6, 10-11。
 - D. 使徒たちの交わりの中で三一の神と交わりを持つことは、わたしたちの個人的な利益をわきに置き、使徒たちと三一の神と結び付いて、神の定められた御旨を完成することです——使徒 2:42. Iヨハネ 1:3. IIテモテ 1:9。
- II. 「神は信実です。この方を通して、あなたがたは彼の御子、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの交わりへと召されたのです」——Iコリント 1:9:
- A. 神はわたしたちを彼の御子の交わりへと召しました。それはわたしたちが、神が与えてくださったわたしたちの分け前としてのキリストにあずかり、彼を享受するためです。
 - B. 神はすべてを含むキリストの交わりへと、すなわち彼にあずかることへとわたしたちを召しました。すべての信者は、彼に焦点づけられるべきであって、賜物のあるいかなる人、過度に強調されたいかなる教理、特定のいかなる実行によってもそらされるべきではありません。
 - C. キリストご自身は、神がわたしたちをその中へと召した交わりです——Iコリント 1:9:
 - 1. わたしたちの分け前としてのすべてを含むキリストの交わりは、すべてを含むキリストの生けるパースンにほかなりません。
 - 2. イエス・キリストの交わりへと召されることは、彼の中へと召されることです。なぜなら、彼ご自身が交わりであるからです——30節。
 - 3. わたしたちはこのパースンの中へと召され、彼の交わりの中へと召されました。すなわちキリストの中へと召され、わたしたちにあずからせ、享受させました。
 - 4. 9節の交わりは、わたしたちがキリストにあずかることです。それはわたしたちが彼を享受し、好むことです。
 - D. キリストの交わり、すなわち、すばらしい、卓越した相互的な関係は、実際にその霊によって完成されます。こういうわけで、わたしたちの経験において、御子の交わりはその霊の交わりです——IIコリント 13:14. ピリピ 2:1。
 - E. 交わりは、わたしたちとキリストが一となっていることを意味します——Iコリント 6:17:

1. わたしたちの経験において、わたしたちが主と一つ霊であることは、神によって彼の御子の交わりへと召された後です—— 1:9. 6:17。
 2. わたしたちはすでに一の中へと召されており、その中でわたしたちは彼と一であり、彼はわたしたちと一です。
 3. 第 6 章 17 節の「結合される」という言葉は、第 1 章 9 節の「交わり」と同義語です。事実上、結合は交わりです。
 4. わたしたちは主と一つ霊であるときはいつでも、キリストの交わりの中におり、すべてを含む方として彼を経験します。
- F. 交わりが意味するのは、わたしたちがキリストとキリストであるすべてを享受することであり、また彼がわたしたちとわたしたちであるすべてを享受することです——ピリピ 1:18. 2:17-18, 28. 3:1. 4:4, 10 :
1. わたしたちは相互性の中へと召されました。わたしたちはその中で神の御子が何であるかを享受し、彼はわたしたちが何であるかを享受します。
 2. この交わりが暗示するのは、すばらしい、宇宙的な、相互の享受、すなわち、わたしたちが三一の神を享受すること、三一の神がわたしたちを享受すること、信者たちが互いに享受することです。

III. 交わりは一と関係があります—— I コリント 1:9. 6:17. 10:16-17. 12:20 :

- A. からだの中での神聖な命の交わり、循環は、からだのすべての肢体を一の中へともたらしめます——エペソ 4:3-6。
- B. この一はその霊の一と呼ばれています (3 節)。それはまたからだの一です—— 4 節. I コリント 12:12-13。
- C. わたしたちは、内側で流れる神聖な命を持っている限り、この一の中にいます。すなわち、からだの一、すべての聖徒の間の一の中にいます。
- D. 唯一の交わりは、キリストのからだの真の一であって、信者たちがキリストの中で一に保たれるための唯一の立場です——エペソ 4:3-6。

IV. 十字架の経験は、水平と垂直の交わりの両方を深め、わたしたちがからだの命を知り、からだの交わりの中に生きることができるようにします——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. マタイ 16:24. I コリント 12:27 :

- A. わたしたちは十字架を経験して、神聖な交わりに対するわたしたちの経験を深める必要があります—— 1:9, 23-24. 2:2 :
1. 十字架がなければ、わたしたちの交わりは浅薄です。十字架だけが神聖な交わりに対する多くの障害を取り除き、わたしたちと主との、また互いとの交わりを深めることができます——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. マタイ 16:24。
2. 交わりは、十字架を通してわたしたちを罪深い自己から救います。十字架がなければ、自己からの解放も、自由もなく、真の交わりもありません—— I コリント 1:9, 23-24. 2:2. ガラテヤ 2:20。
3. マタイ第 16 章 24 節で、主は「自分の十字架」という用語を用いました。これが示しているのは、わたしたち一人一人に対して十字架の特別な分があって、わたしたち一人一人を除き去るということです :
 - a. 十字架を負うことは、いつも自己を否むこと、自己を死に渡すこと、キリスト

の十字架を自己に適用することです——ルカ 9:23-25。

- b. わたしたちは容易に他の人たちに腹を立てます。なぜなら、わたしたちは自身についてとても敏感であるからです。もしわたしたちがそのような強い自己を持っていないなら、他の人たちに腹を立てないでしょう。
- c. もしわたしたちが強い自己を持っており、あらゆることやあらゆる人に腹を立てるなら、真実な交わりを持つことができません。わたしたちは水平の交わりを持つために、自己を否む必要があります——マタイ 16:24。

B. 十字架の経験は、わたしたちをキリストのからだの交わりの中へともたらしめます——ローマ 6:6. 8:13. 12:4-5. I コリント 1:18, 23-24. 2:2. 12:12-14, 27 :

- 1. 十字架はわたしたちの肉、自己、天然の命を対処します。それはわたしたちが実際において、からだの命を認識するためです——マタイ 16:24-26。
- 2. もしわたしたちの肉、自己、天然の命が十字架によって対処されるなら、またもしわたしたちがキリストの頭首権に服従し、からだの命を生きるなら、からだの交わりを享受します——ガラテヤ 2:20. 5:24. ペリピ 3:3. コロサイ 1:18. I コリント 10:16。
- 3. わたしたちとかしらとの関係は、従順の関係ですが、わたしたちとからだとの関係は、交わりの関係です——コロサイ 2:19. I ヨハネ 1:3. I コリント 10:16-17 :
 - a. 交わりは、わたしたちが有限であり、不十分であることを認めることです。交わりは、わたしたちが進んで他の人たちから来るものを受け入れ、それを自分自身のものとするということです。
 - b. 交わりは、わたしたちがからだを必要とすることを認めることです——ローマ 12:4-5。
 - c. わたしたちの肉、自己、天然の命が対処されてはじめて、わたしたちはからだの中に生き、からだの中で交わりを持つことができます。そうでなければ、わたしたちは交わりの重要性を見ないでしょう——ガラテヤ 2:20. 5:24. ペリピ 3:3。
 - d. 神は、わたしたちが交わりなしには前進することができない点にまで、わたしたちをもたらしなければなりません——I コリント 12:14-27. ヨハネ 15:4-6. I テサロニケ 3:8。
- 4. 肉、自己、天然の命が十字架によって対処されるなら、わたしたちはからだの命を認識し、交わりの重要性を見ます。わたしたちはこの交わりがなければ生きることができなくなります——ローマ 6:6. 12:4-5. I コリント 1:9. 2:2. 10:16-17. 12:14-27. I ヨハネ 1:3, 7。

V. 諸召会の中の交わりは、キリストのからだの交わりです——参照、I コリント 10:16 :

- A. 主の回復は、キリストがただ一つのからだを持っており、そのからだは諸地方召会として表現されるという真理に基づいています——エペソ 1:22-23. 4:4. 啓 1:11。
- B. 一つ霊があるので、ただ一つのからだがあり、そしてこのからだの中にはただ一つの命の循環があります。この循環がキリストのからだの交わりです——エペソ 4:4. I ヨハネ 1:3, 7。
- C. キリストのからだの交わりは、「その」霊の循環、流れです。「その」霊がキリス

トのからだの中を循環しているとき、神性、人性、キリストのパーソン、キリストの死、キリストの復活がすべて循環しています。

- D. 地方召会は、唯一のキリストのからだの一部分です。またからだの交わりは、宇宙的に一です。交わりの中には分離はありません——啓 1:11. 2:7 前半：
1. どの召会や地域も、からだの交わりから孤立すべきではありません。
 2. 一つの召会や一つの地域がキリストのからだの交わりから孤立した結果は、暗やみ、混乱、分裂、死です。
- E. わたしたちは主の食卓に来るときはいつでも、からだの交わりを実行しに来ます——参照、I コリント 10:16-17：
1. 主の食卓は、キリストに属するわたしたちが一であるという証しです：
 - a. わたしたちは一つパン、一つからだです。なぜなら、わたしたちはみな一つパンにあずかるからです—— 17 節。
 - b. わたしたちがキリストにあずかることは、わたしたちを彼の一つからだへと構成します。
 2. もしわたしたちがからだの交わりから孤立するなら、主の体にあずかる資格はありません。なぜなら、主の晩餐において、食卓の上のパンはキリストのからだ全体を表徴するからです。
- F. 一つの宇宙的なキリストのからだを構成するすべての召会の間に、組織はありません。しかし、キリストのからだの交わりがあります——ピリピ 1:5。
- G. 神聖な交わりは、キリストのからだの中に生きることの実際です—— I コリント 1:9. 12:12-13, 27。